2016 年度（平成 28 年度）

事 業 報 告 書

（第 6 事業年度）

自　2016 年 1 月 1 日
至　2016 年 12 月 31 日

公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目　　次

Ⅰ．法人の概況 …… 2
1. 公益社団法人設立年月日
2. 定款に定める目的
3. 定款に定める事業内容
4. 公益法人の認定等に関する事項
5. 会員の状況
6. 役員等

Ⅱ．組織運営の概況 …… 4
1. 会議等の開催状況
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

Ⅲ．事業概要 …… 6

公 1：企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及
1-1. 提言・提案活動 …… 8
1-2. 調査研究事業 …… 8
1-3. 認定・顕彰事業 …… 11
1-4. 情報発信 …… 13
1）ウェブサイト運営
2）広報活動
3）出版、ライブラリー
1-5. 普及促進 …… 17
1）メセナフォーラム等
2）国際交流
3）メセナネットワーキング
4）地域メセナ交流・推進
1-6. コーディネート、協力 …… 26

公 2：芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業
2-1. 「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」 …… 29
2-2. 震災復興支援事業「東日本大震災　芸術文化による復興支援ファンド」 … 30
2-3. 助成認定制度 …… 32

Ⅰ．法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011 年 1 月 6 日

※ 1990 年 4 月 20 日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い 2011 年 1 月 5 日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

（1）企業による芸術文化支援の促進と普及

（2）芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力

（3）芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案

（4）国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進

（5）企業等による芸術文化支援活動の顕彰

（6）芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業

（7）その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度において、認定法の規定により内閣府から受けた勧告、または命令はなかった。

5. 会員の状況

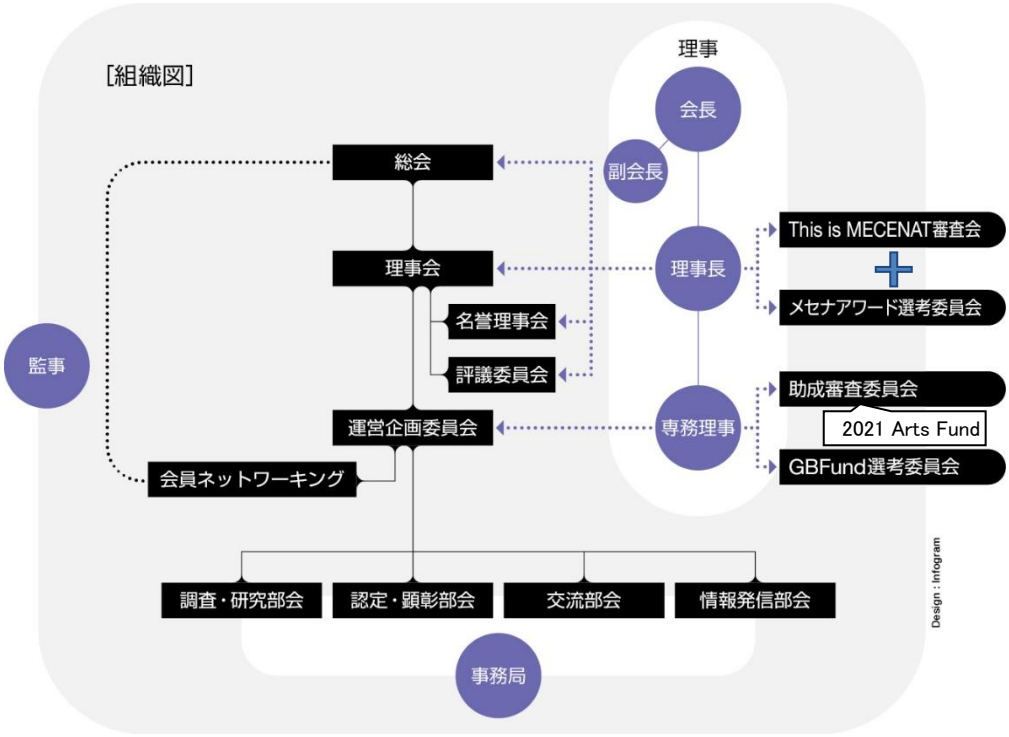
正会員:138 社・団体　準会員:32 社・団体／27 名 （2016 年 12 月 31 日現在）

6. 役員等

2016 年 11 月 15 日現在

名誉会長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
顧　問	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 社友
会　長	髙嶋達佳	株式会社電通 相談役
副会長	秋山耿太郎	株式会社朝日新聞社 顧問
理事長	尾﨑元規	花王株式会社 顧問
専務理事	加藤種男	公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事
理　事	泉谷直木	アサヒグループホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CEO
	片山正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事
	河島伸子	同志社大学経済学部 教授
	杉村亥一郎	凸版印刷株式会社 参与
	布垣直昭	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部長 トヨタ博物館 館長
	林　高広	株式会社資生堂 執行役員
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	二宮雅也	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代表取締役会長
	舟橋香樹	大日本印刷株式会社 ICC本部 本部長
	星　久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事
監　事	岩田武司	弁護士
	太下義之	三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター主席研究員
名誉理事	遠藤信博	日本電気株式会社 代表取締役会長
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役社長
	鬼頭誠司	日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 取締役会長
	斎藤勝利	第一生命保険株式会社 代表取締役会長
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	張富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役社長
	平田保雄	株式会社日本経済新聞社 顧問
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 名誉顧問
評議員	足立直樹	凸版印刷株式会社 代表取締役会長
	奥村洋治	株式会社フジタ 代表取締役社長
	芝川能一	千島土地株式会社 代表取締役社長
	竹安　聡	パナソニック株式会社 役員 ブランドコミュニケーション本部 本部長
	田中稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂 代表取締役社長
	前田晃伸	株式会社みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問
	矢崎和彦	株式会社フェリシモ 代表取締役社長

Ⅱ. 組織運営の概況



1. 会議等の開催状況

【定時社員総会】

- 3 月 16 日 :2015 年度事業報告並びに収支決算／次期理事選任の件／定款の一部変更の件

【通常理事会】

- 2 月 17 日 : 2015 年度事業報告並びに収支決算／次期理事候補について／定款の一部変更案について／定時社員総会の招集／代表理事・執行理事の職務の執行状況の報告
- 12 月 20 日 : 2017 年度事業計画並びに収支予算／基本財産繰り入れの件／認定・顕彰事業にかかる規程改訂の件

【臨時理事会】

- 3 月 16 日:代表理事、執行理事選定の件／理事長及び会長、副会長、専務理事選定の件／評議員就任の件
- 9 月 21 日:新会員承認の件／評議員就任・辞任の件／「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」の今後の展開について／出版計画『創造列島（仮題）』について／代表理事・執行理事の職務の執行状況の報告
- 10 月 14 日:企業メセナ協議会の運営について
- 4 月 13 日、6 月 30 日:（決議の省略による）新会員承認

【役員合同会議】

- 9 月 21 日:「2021 Arts Fund」ほか助成事業の現況について／2020 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたメセナの取り組みについて／マレーシアにおける国際会議の開催について／「This is MECENAT2016」「メセナアワード 2016」について

【運営企画委員会】

- 5 月 17 日:2020 年に向けた「Creative Archipelago(創造列島)」の推進について 他
- 7 月 26 日:GBFund および 2021 Arts Fund の今後の展開について／「Creative Archipelago(創造列島)」の推進について／「Creative Archipelago(創造列島)」の推進について 他
- 10 月 25 日:2017 年度事業計画の方針について／リオ・オリンピックの視察報告
- 11 月 17 日:2017 年度事業方針および予算案について／国際会議の実施内容について

※ 7/26 には会議とあわせて懇親会を実施。9/8 には運営企画委員有志による「Creative Archipelago(創造列島)」分科会を行った。

※ 2/17、9/21、12/20 の理事会および 9/21 の役員合同会議にはオブザーバーとして出席した。

2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

(◎:部会長／グループリーダー、○:サブリーダー ＊2016/12/30 現在)

【調査研究部会】 (3 回:3/16、5/16、11/17)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎吉村真也(TOA)、○金井 圭(損害保険ジャパン日本興亜)、藤原朋子(トヨタ自動車)、
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

【認定・顕彰部会】 (4 回:4/13、7/12、7/21、12/12)

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎森実尚子(日本電気)、原田卓也(アサヒビール)、飯田直子(大日本印刷)、
中村真一(東日本鉄道文化財団)、長野哲郎(電通)、西澤信二(東京急行電鉄)、半田誠一(資生堂)

【情報発信部会】 (2 回:2/1、6/21)

協議会の情報発信の方向性や役割について議論し、具体的な手法について検討する。WEB を中心に多彩なメディアの活用やプレス対応、出版物企画などについても提案する。

原田聖子(グリー)、真木 優(資生堂)、川北 英(竹中工務店)、舟橋香樹(大日本印刷)、
宮本 尚(大日本印刷)、小栗和子(ホテルオークラ東京)、中村可奈子(三菱地所)

【会員ネットワーキンググループ】 (6 回:3/18、4/21、6/21、7/6、8/3、10/25)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎宗村 泉(凸版印刷)、○菅沼比呂志(リクルートホールディングス)、前田学(朝日新聞社)、
岡部三知代(竹中工務店)、内倉真紀子(白寿生科学研究所)、安西正史(パソナ)、
星 久人(ベネッセホールディングス)、鈴木久美子(リソー教育)

Ⅲ. 事業概要

Creative Archipelago（創造列島）の推進
芸術・文化による社会創造＝すべての人がクリエイティブな社会に
～コーディネートを中心に多彩な事業を展開～

本年度は、前年度に策定した中期経営計画（2016～2020 年度）の最初の年にあたり、民間主導の「Creative Archipelago（創造列島）」の理念を具現化すべく導入した寄付金制度やコンサルティング機能が本格稼働した一年となった。特に、強化すべき事業領域として挙げた①コーディネート、コンサルティングの充実、②2021Arts Fund を中心とした助成事業の展開、③メセナ専門機関として幅広い調査を実施、の 3 点は概ね順調に推進できた。

あわせて、設立 25 周年の節目を捉えて注力した各事業の国際化が成果を結び、とりわけ東南アジア各都市の文化関連機関とのネットワークが強化され、日本の企業メセナの理念と事例を紹介し、各国における民間による芸術・文化振興の推進に貢献した一年ともなった。

秋には、リオデジャネイロでのオリンピック・パラリンピックが終了し、2020 年の開催地である東京にフラッグが引き継がれ、東京都だけでなく、国においては文化オリンピアードの認証が始まり、各自治体でも、地方創生と観光誘客への期待からアートフェスティバル等の文化施策を推進。企業においても、2020 年に向けたメセナプログラムの刷新や、新たな取り組みに向けた検証・調査等が進み、各セクターをつなぐプラットフォームとして、企業メセナ協議会に対する期待がより一層大きなものとなっていることを実感している。

また 2011 年より継続してきた「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド（GBFund）」については、検証作業を経る中で、あらためて継続的な支援の必然性が明らかとなった。さらに本年 4 月に発災した熊本地震を受け、協議会としては「GBFund」を「芸術・文化による災害復興支援ファンド」と改め、継続して寄付金の募集と被災地支援を行っていくこととなった。

総じて、企業を中心としながらも、芸術・文化振興にかかわる国内外のさまざまな機関や立場の人々をつなぎ、四半世紀にわたり協議会に蓄積されてきた情報とネットワークを活かし、各機能を活用しながら「芸術・文化による社会創造」に大きく貢献できたものと考える。

■ 民間版アーツカウンシルとしての機能強化

- 協議会は「民から民へ」の資金の流れをつくり、文化振興に関する政策提言を行う「民間版アーツカウンシル」である。その機能強化のために設立した助成制度「2021 芸術・文化による社会創造ファンド（2021Arts Fund）」をコーディネート事業と絡めて積極的に展開。具体的なメセナプログラムを提案し、独自のファンド運営を実現できたことは大きな成果であり、財政基盤強化の点からも意義があった。
- 協議会にこれまで蓄積されてきた情報とネットワークを活かし、各地の企業や自治体、文化機関、メディア等から寄せられる相談に応じ、具体的な施策の提案、コンサルティング等を行っており、調査やコーディネート事業として受託。さらに「This is MECENAT」によるメセナ活動の顕在化が進み、外部研究者等を活用する「メセナ・アソシエイト」や「メセナライター」はじめ、受託事業においても外部の人材や機関等との協力による展開が実施できた。

■日本企業のメセナの価値を顕在化、積極的に情報発信

- 東南アジア各都市における国際会議や、調査研究事業における海外メセナの調査および国際比較を通じて、日本の企業メセナが、規模・内容ともにいかに充実しているかが明らかとなっている。特に日本企業の経営理念として培われてきた「三方よし」の考え方や、各社独自の技術やスキルを活かしたメセナの手法の開発など、日本企業のメセナは世界に誇れる内容である。
- これら日本企業のメセナの成果と意義を調査研究等で掘り下げ、その理念と具体的な事例を国内外に積極的に発信することで、メセナの価値の顕在化に取り組んだ。それにより、メセナに関心を寄せる企業や各機関等からの問い合わせも増え、協議会のプレゼンス向上にも寄与した。

【2016 年度事業等実施状況】

月	主な事業・活動		理事会・部会等
1 月			
	メセナフォーラム・賀詞交歓会(1/22)		
2 月		プレス①	情報発信①
		助成審査会(2/24)	通常理事会(2/17)
	ミニ・メセナフォーラム(2/29)	プレス② 記者発表会(2/26)	
3 月	国際会議&調査@ジャカルタ(3/7-11)	プレス③	
	調査報告会(3/16)	英プレス①	総会・理事会(3/16)
	メセナ音楽部(3/18)、TIM 募集(3/1-5/15)		
4 月		プレス④	認定顕彰①
		プレス⑤	
			会員 NW①
5 月	瀬戸内調査報告会(5/10)		
	国際会議@東京(5/27)		調査研究①
	アワード募集(-5/31)		運営企画委員会(5/17)
6 月	音楽部意見交換会(6/21)	プレス⑥ GBFund 選考(6/13)	
	調査アンケート(6/25-9/13)	プレス⑦ 助成審査会(6/22)	情報発信②
	メセナ・アソシエイト報告会(6/30)	プレス⑧英プレス② TIM 審査(6/24)	
7 月	新入会員ファーストミーティング(7/6)		
	GBFund 報告会(7/14)	プレス⑨	認定顕彰②③
		英プレス③	運営企画委員会(7/26)
8 月	会員 NW 勉強会(8/3)	プレス⑩	
	国際会議&調査@マレーシア(8/23-25)		
9 月	三陸国際芸術祭フィールド視察(9/9-11)	アワード選考①(9/2)	
		助成審査会(9/14)	
		英プレス④	理事・役員合同会議(9/21)
10 月		アワード選考②(10/3)	
	瀬戸内アートクルーズ(10/17-18)		
	メセナ美術部(10/25)	プレス⑪ 記者発表会(10/27)	臨時理事会(10/21)
11 月	瀬戸内国際芸術祭＆岡山芸術交流フィールド視察(10/31-11/2)		
	メルボルン調査(11/7-11)		調査研究③
	アワード贈呈式(11/24)		
12 月	メセナフォーラム(12/4)	プレス⑫ 助成審査会(12/8)	
			認定顕彰④
			通常理事会(12/20)

公 1：企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

1-1. 提言・提案活動

■「Creative Archipelago（創造列島）」の推進

- 2020 年に向け、中期経営計画のコンセプトとして掲げた「Creative Archipelago（創造列島）」の実現に向けて、理事会や運営企画委員会ほか各種会合で提案やプレゼンテーションを行い、意見を求めた。議論を重ねた結果、「文化オリンピアード」認証や「beyond2020」など国の制度とは独立並行するかたちで、協議会では、企業が中心となって取り組む文化活動を顕在化させるべく、各事業と連携しながら推進することとした。
- 「Creative Archipelago（創造列島）」の理念の周知に努めるべく、2 月 19 日に記者懇談会を開催。①クリエイティブ・コミュニティの形成、②文化的多様性社会（Creative Diversity）の実現、③創造経済の実現の 3 つを目指し、「2021Arts Fund」や「This is MECENAT」、調査事業等と連携しながら推進すると発表。日経新聞「文化往来」、読売新聞の社説でも取り上げられた。
- 公的機関から企業メセナに対する関心・期待も高く、東京都のボランティア活動推進協議会へのメセナ案件の推薦や、文化庁による「文化情報プラットフォーム」構築に向けた相談もある。

■東南アジア諸国とのネットワーク形成、各国の中間組織発足に向けた議論を推進

- 協議会 25 周年事業で行った国際会議を機に、東南アジア諸国を中心とした各国の文化機関とのネットワークが形成され、特にインドネシアのルジャックセンター、マレーシアのマイ・パフォーミング・アーツ・エージェンシー（MyPPA）とは、協働による継続的な会議を企画。3 月にはジャカルタ、5 月に東京、8 月にクアラルンプール、ペナンでの会議と視察を実施した。
- その成果として、ジャカルタではコスメティックを扱う現地企業が CSR 部門を立ち上げたほか、インドネシア・フィランソロピー・アソシエーションを中心に企業や篤志家らが集い、民間による芸術・文化振興の基整づくりに向けた検討を始めている。またマレーシアでは企業 20～30 社が集い、年 2 回ほどの会議を行うなどでネットワーク形成をはかっている。MyPPA とは東京会議において、マレーシアにおける企業メセナの推進に向けた協働を約する MOU（了解覚書）を交わすなど、メセナへの理解を深め、各国の中間支援組織の発足に向けた促進力となった。

1-2. 調査研究事業

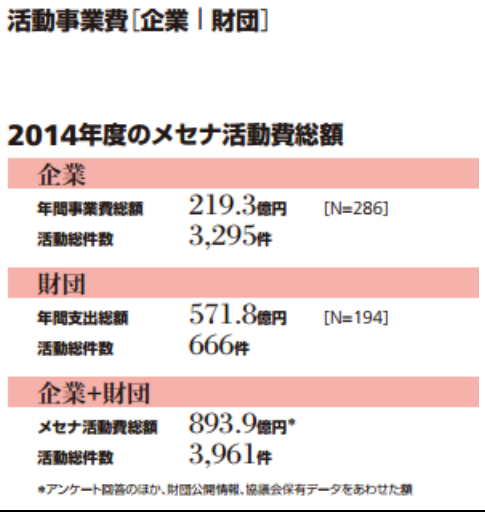
■企業メセナの実態に迫る調査・研究

- 2016 年度の調査研究事業では、①国内外のメセナに関する調査、②メセナ事例の研究、③外部機関からの調査受託・相談対応の 3 つの柱で業務を推進した。
- 例年、日本の企業・企業財団に対して行っている「メセナ活動実態調査」では、アンケートを中心として幅広くデータを収集。過去のアンケート回答企業・財団のデータを整理し、簡易な回答システムを活用することにより、効率よくアンケートを回収することに努めた。これにより企業 398 社、財団 192 団体より回答を得ることができた。
- 「メセナ活動実態調査」での収集データに加え、認定・顕彰事業や助成事業で得ている情報をはじめ、他の文化機関やアートフェスティバルへの協賛等、公開されているデータを照合し、よりメセナの実状に迫る精度の高い調査に取り組んだ。

- 調査研究部会では、業種や規模もさまざまな企業の取り組みを分析し、メセナ実施企業の約 6 割が自主企画を行い、8 割を超える企業が本社所在地で活動を実施している点に注目した。さらにメセナに参画する従業員数が 100 名以上という企業が 2 割あり、地域に根差したメセナの定着を分析した。また「オリンピックに向けた文化プログラム」を時事設問とし、2 割を超える企業が何らかの検討に着手していることを把握した。
- 2015 年度メセナ活動実態調査の報告書として『Mecenat Report 2015』を発行するとともに、調査報告会を実施し、部会メンバーが調査分析による最新のメセナ動向を紹介。あわせてゲストトークとして、新日鉄住金文化財団の町田龍一氏を招き、長年にわたるメセナ活動における変遷、社会や時代の要請に応じたプログラム開発や創意工夫について紹介があった。

【2015 年度「メセナ活動実態調査」報告会】

- 実施日　2016 年 3 月 16 日(水) 13:30～14:45
- 会場　ベルサール東京日本橋 Room 11(東京都中央区)
- 出演　調査研究部会:吉村真也(TOA)、山本真由美(トヨタ自動車)、
  金井圭(損害保険ジャパン日本興亜)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)
  ゲスト:町田龍一(新日鉄住金文化財団)
- 参加者　33 名(会員企業・個人会員、メディア等)



■海外の企業メセナの状況把握と国際比較

- 民間の文化支援について国際比較を行うべく、2015 年度に続き、各国のメセナに関するデータの収集と現地視察により状況を把握。海外のメセナ機関 30 件の WEB 調査を行い、協議会サイト「世界のメセナ」を更新するとともに、Americans for the Arts(アメリカ)、Business Support for the Arts(カナダ)、Creative Partnerships Australia(オーストラリア)、Ministry of Culture, Community and Youth / National Arts Council(シンガポール)、ADMICAL(フランス)については公開資料の収集を進めた。また国際会議の実施にあわせて、タイ、マレーシア、オーストラリアより、各国の民間文化支援動向に関するアンケートの回答を得た。
- 現地調査としては、インドネシア・ジャカルタ(3/7-8)、マレーシア・クアラルンプール(8/24-26)での国際会議に伴い、中間支援組織や文化施設、企業・財団の視察およびヒアリングを実施。また、オーストラリア・メルボルン(11/8-10)では、民間団体、行政機関、企業・財団計 7 件を訪れ、それぞれの文化振興策の方針や手法、現状と動向等についてヒアリングを行った。これら海外機関の視察調査の内容についてレポートを作成し、WEB 掲載すべく準備を進めている。

- これら企業メセナに関する調査結果については、文化庁発行の『我が国の文化政策』はじめ公的機関の統計要覧や文化団体の年鑑等に掲載されるほか、新聞やウェブニュースなどでも日本企業のメセナの多様性を示し、国際比較のデータとしても活用された。
- なお本調査研究事業は、文化庁の「平成 28 年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に採択された(事業受託:14,400,000 円)。

■メセナ・アソシエイトによる事例研究

- 2014 年度より導入した「メセナ・アソシエイト」では、外部の若手研究者が各自の専門性を活かしながら関心あるテーマを設け、企業メセナについて研究を行うものである。毎月のライブラリーミーティングで議論を深め、調査研究部会との意見交換を行いながら自らのテーマを探り、企業各社への取材を行いつつ、メセナの事例研究を行っている。
- 第二期のメセナ・アソシエイト3名は、顕彰・コンクール事業や社会的包摂に関わるプロジェクト、中規模企業のメセナ活動を取り上げ、具体的な実践例を分析しながら、それぞれの意義や課題を掘り下げた。報告会を 6 月 30 日に行うとともに、レポートを WEB に掲出している。
- 2016 年も第三期となるメセナ・アソシエイトを募集し、13 名の応募者の中から、6 名を選出した(うち 1 名は第一期より継続)。大学や自治体の文化機関、中間支援組織など多彩なバックグラウンドを持つメンバーを迎え、ライブラリーミーティングを重ね、各自の研究テーマについて取材先を検討しているところである。

<u>第二期メセナ・アソシエイト</u>

澤谷夏樹 **「顕彰・コンクール事業の現在――選考方法と事後支援策」**
取材企業: 大阪ガス株式会社(大阪府)、公益財団法人サントリー芸術財団(東京都)、寺田倉庫株式会社(東京都)、東京ミッドタウンマネジメント株式会社(東京都)、株式会社リクルートホールディングス(東京都)

鈴木紗綾子 **「ソーシャルインクルージョン系プロジェクトのベンチマーク調査およびプロジェクト実施による知見の社内資産化に関する評価」**
取材企業: 近畿労働金庫(大阪府)、株式会社パソナハートフル(東京都)、明治安田生命保険相互会社(東京都)

高島知佐子 **「中規模企業におけるメセナ活動の意義と継続性」**
取材企業: TOA 株式会社(兵庫県)、飯田信用金庫(長野県)

<u>第三期メセナ・アソシエイト</u>(委嘱期間:2016 年 9 月 7 日～2017 年 3 月 31 日)

海老澤彩	AOBA+ART キュレーター／リサーチャー
田中実紀	アーカイブ・リサーチャー
澤谷夏樹	音楽評論家
杉浦幹男	2020 年オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会　プログラムコーディネーター、アーツカウンシル新潟　プログラム・ディレクター
竹口弘晃	立正佼成会　時務部　時務グループ、中央学術研究所研究員、日本文化政策学会員
松下倫子	東京芸術大学大学美術館学芸研究員

■調査研究の蓄積を活かし、芸術文化振興に関する幅広い調査を受託

- 近年、会員はじめ外部機関等から、調査データの提供依頼や相談が増加傾向にあり、これまで協議会が蓄積してきた調査研究の成果を活用する機会が増えている（会員企業 3 社、自治体 3 件、大学 2 件）。また外部機関より、企業メセナをはじめ芸術文化振興に関わる案件の調査依頼があり、コーディネート・コンサルティング事業として受託している。
- 2015 年度に広島県より受託した「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」の成果をまとめるとともに、2016 年は新たに「瀬戸内アートツーリズム資産整理・評価業務」を受託。瀬戸内 7 県（兵庫、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛）のアート資産について悉皆調査を実施し、約 4,800 件を洗い出し、そのうち約 3,000 件のアート資産について評価を行った。協議会が蓄積してきたネットワークと知見を活かした事業展開となった。
- 会員企業からは、全国のアートフェスティバル・アートプロジェクトに関する調査依頼や、エイブルアートの動向に関する情報提供、海外のメセナの現状などについて問い合わせがあり、これまでの調査実績に加え、新たにリサーチを実施した。

1-3. 認定・顕彰事業

■メセナ認定「This is MECENAT」が浸透、アーカイブサイトも充実

- 2014 年度に設立したメセナ認定制度「This is MECENAT」（以下「TIM」）は、多様なメセナの姿を幅広く顕在化させるべく周知に努め、TIM2016 では 136 件、73 社・団体の活動を認定した（2015 年度：122 件、69 社・団体）。そのうち 89 件が前年度からの継続申請であり、毎年度の認定および登録が徐々に浸透してきたといえる。
- 会員の活動登録については、前年度の 92 件から 110 件に増加した。なお件数では 18 件増だが、実際の内容を見ると、新たな活動を申請してきている場合もあり、38 件（18 社）が新規登録となっている。
- 全体で新規登録となった企業・団体は 13 件で、会員 7 社、非会員 6 社・団体となっており、非会員企業についても積極的な視察等を通して活動の実態を把握し、TIM への申請を進めることで、協議会の存在を認識してもらう機会となっている。
- 会員・非会員のいずれにおいても、TIM によるメセナ認定を評価と捉え、継続認定を目指すなど多様なモチベーションが伺え、少しずつ制度が周知されてきた手応えを感じる。さらに事務局による現場視察やヒアリングを通じて相互に理解が進み、TIM を接点として、協議会の他の活動への参加やご相談につながるなどの好循環もあった。
- 認定活動に「メセナマーク」（通称 M マーク）を付与、WEB やチラシ、記録集等の印刷物に載せるほか、催事会場でのパネル掲出なども見られた。特に継続認定している活動では M マークの見せ方にそれぞれ工夫を凝らしており、認定マークの露出により、当制度の認知度および価値が高まっている。
- アーカイブサイトは、段階的にリニューアルを進めており、TIM の認定活動を検索するうえで利便性が向上している。今後より広くメセナ活動を理解いただく媒体として、情報の蓄積と発信の双方に貢献する方針である。

THIS IS MECENAT 2017

■TIM2015 と連動して「メセナアワード 2016」を運営、長年にわたるメセナ活動が受賞

- 「メセナアワード 2016」では TIM2015 で認定した 122 件の活動を対象としており、5 月末までの受付期間で自薦によるエントリーは 34 件あった。あわせて、認定・顕彰部会による検討会議において優れた活動を推奨し、全 51 案件が選考会で検討された。
- 対象案件については約 3 ヶ月間にわたり事務局が調査・取材を行い、認定・顕彰部会による 2 度の検討会議を経て、9 月上旬と 10 月上旬に一次・二次選考会を実施。メセナ大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞として文化庁長官賞 1 件（文化庁後援）を選出、優秀賞の賞名は評価ポイントを反映させるべく、選考委員が考案した。
- 本年は、「工芸」の創り手支援を通じた美しい生活文化を提案するギャラリー運営をはじめ、舞台裏のプロフェッショナルや若手アーティストへの支援・贈賞、子どもたちの創造力を育むコンクール、豊かな児童文化の醸成に貢献した活動などが受賞。企業による顕彰事業を中心に、特に、長年にわたるメセナ活動が注目され、50 年以上におよぶ活動が 4 件受賞となった。
- 10 月 27 日にプレスリリースを発行し、記者発表会を実施。主要メディアをはじめ地方紙や業界紙、専門誌など 24 社・27 名の記者が参加した。受賞各社のメセナ担当者も出席し、直接取材することで、受賞者のコメントを交えた記事掲載につながった。
- 贈呈式および記念レセプションを 11 月 24 日、スパイラルホール（港区・青山）にて開催。大賞を受賞した日本毛織の富田一弥社長はじめ各社・団体のトップが登壇し、受賞の喜びをスピーチした。また、宮田亮平文化庁長官、審査委員が出席したほか、協議会会員や文化関係者など約 230 名が集い、プレス関係者 30 名超の参加を得て盛況な式典となった。
- 贈呈式の開催にあわせ、受賞活動の詳細を紹介するリーフレットを制作、メセナ大賞受賞のトップインタビュー、審査委員のコメント、応募活動一覧をまとめた。WEB とも連動させ、贈呈式の後には受賞各社代表のスピーチや選考評などをレポートとして掲載した。
- 贈呈式の開催ならびにトロフィー制作にあたっては、ワコール／ワコールアートセンターの協力を得ており、前年度に引き続き、悠（はるか）氏にオリジナルのトロフィー制作を依頼した。記念レセプションでは、アサヒビール、サントリーホールディングスよりドリンクをご恵贈いただいた。

【メセナ アワード 2016 受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞		日本毛織株式会社 工房からの風
優秀賞	縁の下発掘賞	株式会社 CBC テレビ CBC クラブ文化賞（くちなし章）
	若手貝画賞	昭和シェル石油株式会社 シェル美術賞
	建築文化接近賞	株式会社竹中工務店 季刊誌［approach］の発行
	東京なかつまち技芸賞	東京ミッドタウンマネジメント株式会社 Tokyo Midtown Award 2015
	子どもに夢を半世紀賞	東燃ゼネラルグループ 東燃ゼネラル児童文化賞
特別賞： 文化庁長官賞		日本トランスオーシャン航空株式会社 JTA・RAC あおぞら図画コンクール

メセナアワード 2016 贈呈式

大賞・優秀賞オリジナルトロフィー（撮影：佐藤茂）

【This is MECENAT 2016／メセナアワード 2016 審査委員】

原島 博	（東京大学名誉教授）	＊審査委員長
伊東信宏	（音楽学者、大阪大学大学院文学研究科教授）	
大竹文雄	（大阪大学社会経済研究所教授）	
金沢百枝	（美術史家、東海大学教授）	
中村陽一	（立教大学 21 世紀社会デザイン研究科教授）	
松田法子	（都市史・地域史研究、京都府立大学講師）	＊以上五十音順、敬称略
尾﨑元規	（企業メセナ協議会理事長）	

1-4. 情報発信

1） ウェブサイト運営

■会員のメセナ活動および協議会活動の発信プラットフォームとして定着

- 2014 年の WEB リニューアルを経て、本年も引き続き、ウェブサイトを中心とした情報発信に注力した。トップページで会員のメセナ活動を紹介する「アート＆カルチャー」では、定期的かつ自発的に情報を寄せてくれる企業・団体が増え、会員に一定の認知がなされてきたと考えられる。2016 年は、154 件・31 社・団体の活動を「アート＆カルチャー」に掲載した。
- WEB サイト、SNS の拡充は着実に効果を発揮しており、閲覧状況も堅調である。Facebook をほぼ毎日の頻度で更新し、メルマガを毎週月曜日に配信している。Facebook ページの「いいね！」は現在、2,005 件。週 1 回のメルマガ配信に対しても、会員からの感想や、幅広い読者から情報掲載の依頼が寄せられるケースが増えている。現在のメルマガ配信数は約 2,400 件で、会員・一般：約 1,800 件、GBFund への寄付者や 2021 ArtsFund 利用者約 600 件となっており、メセナ担当者および関心層に情報が確実に届いている手応えが感じられる。
- 2016 年は協議会事業の発信に注力し、これまで整備してきた日英バイリンガルの WEB サイトで、各事業と連携した情報発信を充実させた。調査研究の結果やメセナアワード受賞活動などの基幹事業に加え、2011 年から 5 年を迎えた GBFund や、ASEAN 各都市で連続開催している国際会議、2021ArtsFund を活用した「SOMPOアート・ファンド」の設立など、話題性や新規性ある取り組みの発信に注力した。
- 2015 年度より導入した「メセナライター」制度については、2016 年 6 月までを第一期として 8 名のライターを委嘱、続く第二期は、新たに 4 名のライターを公募により委嘱した。首都圏だけで

なく、地方在住のライターもおり、各地のメセナ活動の現場や協議会の各種催事を取材し、担当者へのインタビューを行い、レポートを WEB に掲載している。

- メセナライターのレポートについては、会員はじめ取材先からも好評を得ており、メセナ情報の発信内容にふくらみを持たせることができている。また、大日本印刷「artscape」やトヨタ自動車「ネットTAM」のバナー掲載による連携が継続しており、両サイトのご協力を得て読者層の拡大に向けた情報発信の横展開を行っている。

	セッション数	ユーザー数	ページビュー
2016 年	110,311	77,692	402,343
2015 年	115,765	89,174	321,017
2014 年	78,323	55,326	324,544

※セッション数：サイトの訪問回数、ユーザー数：サイトの訪問者数、ページビュー：サイト内ページ閲覧数

【メセナライターレポート掲出数：15 件】

公開	タイトル	活動/企業	ライター
1 月	色彩を扱う会社がこめた思い －地域に愛される美術館－	「絵の住処（すみか）－作品が暮らす 11 の部屋 －」DIC 株式会社　DIC 川村記念美術館	阿部千依
1 月	“地域”の境界を揺さぶりながら発信する―三菱地所アルティアムの新たな取り組み	三菱地所株式会社 三菱地所アルティアム「Local Prospects―海をめぐるあいだ」展	横山恭子
2 月	『過ぎゆくもの』を包み込む赤煉瓦のぬくもり	公益財団法人　東日本鉄道文化財団主催 東京ステーションギャラリースペシャルコンサート 「赤煉瓦のぬくもりの中で」1 日目「過ぎゆくもの～色と音が遊ぶとき 〈旅〉をテーマに様々な国と時代の歌を」	原　亜由美
3 月	写真で何ができるだろう？ 写真でしかできないことは何だろう？	新しい写真表現に挑戦する若手アーティストの登竜門：キヤノン「写真新世紀」（公募コンテスト）	阿部千依
3 月	食品スーパーのメセナ、サミットの想い	株式会社サミット 第 25 回大宮八幡宮「杉並花笠祭り」 大宮八幡宮表参道	山下昭子
3 月	日本の伝統と最先端クリエーションとの出会い	株式会社白寿生科学研究所 第 3 回　アート×アート×アート　能×現代音楽×ファッション　能オペラ　Hakuju Hall	矢口晴美
4 月	そこにあり続ける劇場、変わり続ける人形劇～ひまわりホールは光の方を向いている～	損保ジャパン日本興亜株式会社 P 新人賞 2015 最終選考上演会 損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホール	福島尚子
4 月	新しい美の巣立ち、art egg	株式会社資生堂 資生堂ギャラリー「第 10 回 shiseido art egg」	原　亜由美
4 月	オフィス空間に溶け込んだアートと共生する	大林組東京本社アートプロジェクト 融合する建築空間とコンテンポラリーアート 大林組東京本社	矢口晴美
5 月	銀座に企業と市民をつなぐ風穴を開けたギャラリー	ギンザ・グラフィック・ギャラリー 30 周年記念　第 352 回企画展「明日に架ける橋」 大日本印刷株式会社	山下昭子
9 月	「未来を楽しむ」ために。震災復興支援 GBFund の成果	「GBFund 2011-2015 報告会」 電通ホール	中野昭子
9 月	「文化を次世代に引き継ぐ」ためのアート活動―寺田倉庫―	第 4 回会員ネットワーク勉強会	河野桃子
12 月	人を癒す水と音楽―響き合う魂	メセナアワード 2015 贈呈式	山下昭子

12 月	災害のあとに ～アートや文化ができること～	ウィーン・フィル＆サントリー音楽復興基金「こどもたちのためのコンサート」特別公演～岩手・宮城・福島のこどもたちとウィーン・フィルメンバーによる夢の共演～サントリーホール サントリー芸術財団	大野はな恵
12 月	造船所跡からの発信、アートで地域活性化を	クリエイティブセンター大阪、北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想　千島土地株式会社	藤嶋　亨

2） 広報活動

■記者とのコンタクトに注力し記事掲出数が増加、社説への掲載も

- 2 月 19 日に行った記者懇談会「Creative Archipelago（創造列島）が目指すもの」では、主要なメディアの記者が集まり、高嶋会長、尾﨑理事長、加藤専務理事と記者の間で活発な意見交換がなされた。結果、日経新聞「文化往来」、読売新聞の社説掲載につながった。
- 前年同様、記者との顔の見える関係づくりに努め、特に、各地方紙への配信につながる共同通信や地元紙への訪問による事業説明で関係性の構築を目指した。GBFund で支援を継続している「三陸国際芸術祭」開催地での広報活動や、コーディネート事業「SOMPOアート・ファンド」における広報連携も行った。
- 2016 年は、メセナや社会貢献、芸術・文化振興にかかわる記事の掲出数が延べ 320 件と、過去 6 年で最多となった。これは 1 つの記事でも複数事業にまたがる内容をカテゴリーごとに重複カウントした数だが、純粋な記事件数だけでも 293 件となり、やはり最多だった。新しい事業についての掲載や、記事の分類方法の見直しも一因だが、全体としてメセナに関する言及は増加傾向にあるといえる。
- ASEAN 各都市で継続実施している国際会議は、海外媒体で 5 件、国内媒体で 4 件の掲載があり、ASEAN 諸国における企業メセナの認知度向上と、特にマレーシアの MyPAA と協議会とのパートナーシップを周知することができた。英語によるプレスリリース配信のほか、ネットワークを培ってきた海外組織へはメルマガ等の配信も行うことで、仏・ADMICAL の WEB サイトに東京会議の報告記事が掲載されるという成果もあった。
- GBFund は設立 5 年の節目となり、この間の検証作業と報告会を開催したことで、毎日新聞、日本経済新聞に大きく取り上げられ、ファンドの意義と成果が周知された。さらに中日新聞や、直接 GBFund に言及せずとも、福島民報など地域紙でも関連記事が掲載され、災害時における芸術・文化の役割について示すこととなった。
- 読売新聞、毎日新聞が社説で「メセナ」に注目、両紙とも最近の協議会の活動を総括する記事となった。近年のメセナアワード受賞活動はじめ具体例に触れ、メセナ活動実態調査の結果も活用しながら、企業メセナ全体を俯瞰する内容であった。社説掲載はこの 2 年で、朝日・読売・毎日の 3 紙となり、企業メセナの現在の姿が紹介された。

【プレスリリースによる情報発信：16 件 ※】

No.	配信日	リリースタイトル
1	2/19	「This is MECENAT 2016」募集 3/1 よりスタート企業メセナ協議会が全国のメセナ活動を認定 2020 年を契機に各社の動きが全国で加速―
2	2/26	2020 年以降に続く文化振興による社会創造を　企業メセナの新展開 「Creative Archipelago（創造列島）」が目指すもの
3	3/14	経営資源を活かした独自のメセナプログラムを各地で展開 ～2015 年度「メセナ活動実態調査」結果～

4	4/20	東南アジアにおける企業メセナを促進 ～国際会議「芸術・文化振興と社会創造における企業の役割」を東京で開催～
5	4/28	メセナ協議会、熊本地震への支援ファンドを設立、寄付活動を開始 ～「GBFund 熊本・大分」で被災地を応援する芸術・文化活動を支援～
6	6/15	熊本地震を受け芸術・文化活動に第一回助成決定 「GBFund」芸術・文化による復興支援ファンド
7	6/15	災害時の芸術・文化の役割を問う「GBFund 報告会」開催 ～5 年間の助成活動から見えてきた、被災地復興支援の今とこれから～
8	6/30	企業メセナ協議会＆マイ・パフォーミング・アーツ・エージェンシー（マレーシア）共催 国際会議「ASEAN ネットワーク構築に向けて」クアラルンプールで開催
9	7/5	2020 年以降につなぐ芸術・文化振興活動を決定 ―メセナ認定「This is MECENAT2016」/「Creative Archipelago」136 件が決定―
10	8/22	未来の文化創造に向け、損保ジャパン日本興亜がSOMPO アート・ファンドを設立 第一回助活動 18 件が決定
11	10/27	「メセナアワード 2016」受賞活動決定 「手仕事のものづくり」支援にメセナ大賞―50 年超の活動が過半数、沖縄企業に文化庁長官賞―」
12	12/21	東京フォーラム「芸術・文化を振興する企業理念とは ―インドネシア・マレーシア企業における展開に向けて」開催

※ 上記プレスリリースのうち以下の 4 件は英訳し、国内外の文化機関等に配信した。

№2： New Development of Corporate Mecenat –Goal of Creative Archipelago–
№3： The result of the Survey for Corporate Mecenat Japan 2015
№6： Announcement of the 14th GBFund selection result and
1st GB Fund Kumamoto and Oita selection result
№8： Invitation: New Economic Growth through Arts - Role of Corporations, and ASEAN Network - Kuala Lumpur Conference

【メディア掲出数：延べ 320 件】

	メセナ・文化政策	企業	協議会	アワード	TI M	調査研究	助成	国際	その他	合計
2016 年	54	92	33	71	3	7	27	7	26	320 件
2015 年	45	88	26	79	9	0	1	－	0	248 件
2014 年	45	54	34	81	5	2	5	－	1	227 件

※「助成事業」の内訳は、2021Arts Fund（SOMPOアート・ファンド）4 件、GBFund22 件、助成認定 1 件。
※「その他」は、カテゴリーに分類できない、理事の文化・芸術振興にかかわる活動や国の文化・芸術振興政策など。
※ 上記に含まれないものとして地域のメセナ団体の主な活動は 28 件あった。

【主な掲出記事】

掲載日	媒 体	内 容
3/28	日経新聞	文化往来「メセナ協、五輪に向け『創造資源』発掘へ」
4/30	読売新聞	社説 「地道な社会貢献こそが大切だ 企業メセナ」
8/22	日経新聞	文化往来「メセナ協、迅速な芸術支援で復興後押し」
9/10	毎日新聞	社会面 「神楽復活 復興の力に メセナ助成活用 各地で」
9/18	東海新報	「気仙の事業にも助成 SOMPOアート・ファンド」
10/25	毎日新聞	「企業メセナ 文化支援さらに拡大を」

※ 共同通信による地方紙配信
…「【転換への一歩】被災地の郷土芸能 新たな形で継承に道」（愛媛新聞）など 8 件

3） 出版、ライブラリー

■25 周年記念出版の企画を進行

- 2014 年より着手している 25 周年記念出版については、『Creative Archipelago（創造列島）』として、メセナの先駆けとも言うべき数々の事例を掘り下げ、経済と文化のかかわり、コミュニティの基盤となる文化の役割について追究する内容で構成。現在、出版形態等について検討を行っているところである。

■メセナ情報の提供とライブラリー運営

- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ・社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:30（要電話予約）
開架資料	• 和書・報告書: 1,533 冊（企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧） • CSR 報告書: 約 250 冊 • 洋書:562 冊（14 カ国の文化政策、アートマネジメント関連） • 企業・企業財団の資料:約 1,060 企業・団体分 • 新聞・雑誌掲載記事（1989 年 12 月～2015 年 12 月） • 定期刊行物:行政、芸術団体、研究機関、NPO、他
閉架資料	• 映像・音声資料:265 点（主催セミナー:1998-2001 年）、メセナアワード贈呈式:～2008 年 他）
年間利用者数	10 名（大学、企業、文化団体等）

1-5. 普及促進

1） メセナフォーラム等

■多彩なメセナフォーラム、ミニ・メセナフォーラム、フィールド視察等を実施

- 協議会事業に基づくメセナフォーラムやコーディネート事業と絡めたフィールド視察など、効率的かつ効果的な企画運営を実現できた。フォーラムや視察を行うことで事業にフィードバックできたり、会員拡大につながるなど、相乗的な成果が得られた。
- 年始の賀詞交歓会にあわせてメセナフォーラムを開催。「Createive Alchipelago プロジェクトチーム発足ミーティング」として、東日本鉄道文化財団と損害保険ジャパン日本興亜による活動紹介と、本年秋に岡山市内で初開催となる国際芸術祭「Okayama Art Summio2016」よりプレゼンテーションがあった。日本各地で、民間による文化プロジェクトが活性化している現状に対し、アーツカウンシル東京オリンピック文化戦略担当課長の石綿祐子氏より、東京でも文化プログラムを始動すべく、民間との連携も視野に入れ協働したい旨、コメントがあった。
- 事務所ライブラリーを会場に、協議会を訪れる内外の文化関係者と、参加者が少人数で語り合うミニ・メセナフォーラムでは、マックマスター大学財団副理事長のローナ・ソマーズ氏の来日の機会をとらえ、ファンドレイジングに関するレクチャーを実施。メセナ担当者やアートマネジャーらが集い、意見交換を行った。

- GBFund で支援を続けてきた「三陸国際芸術祭」の開催にあわせたフィールド視察を行うとともに、文化庁、国際交流基金と協議会の三者も主催に連なり「三陸とアジアの未来」をテーマとしたフォーラムを開催(9/9)。祭りや伝統芸能が地域コミュニティの再生に大きな力となり得ることを参加者全員で確認。翌日から 2 日にわたる「三陸国際芸術祭」では、「東北三大祭り」やまちなかでの伝統芸能やジャワやアジア各国から招いたダンスや音楽の披露、日本のコンテンポラリーダンスやコミュニティダンスの発表も行われた。
- メセナやアートの現場を訪ねる「フィールド視察」は、前年度に引き続き、せとうち観光推進機構と連携した「瀬戸内アートクルーズ」を実施、地元企業による「アート部会」も発足した。また「瀬戸内国際芸術祭 2016」と「岡山芸術交流 Okayama Art Summio2016」が同時期に開催される機を捉え、2 泊 3 日で両方のアートフェスティバルを訪れ、文化による地域振興の現場視察を行った。

【メセナフォーラム】

Creative Archipelago プロジェクトチーム発足ミーティング

2020 年に向けて、企業や企業財団が実施する文化プログラムのプレゼンテーションのほか、プロジェクトチームの方針について提案と意見交換。

- 日時:2016 年 1 月 22 日(金)14:00～15:00
- 会場:小石川テラス(トッパン小石川ビル 2F)
- プレゼンター: 山本典子(公益財団法人東日本鉄道文化財団　担当課長)
  那須太郎(「岡山芸術交流　Okayama Art Summio2016」総合ディレクター)
  嶋田行輝(損害保険ジャパン日本興亜株式会社　CSR 部長)
- コメンテーター:石綿祐子(公益財団法人東京都歴史文化財団　アーツカウンシル東京
  オリンピック文化戦略担当課長)
- 参加者:103 名(会員 83 名、招待 9 名、一般 11 名)

三陸とアジアの未来　～2020 年を越えて～　芸能による復興と新たなコミュニティの創造

三陸国際芸術祭のメインプログラムの一環として、全国の文化関係者、三陸の各市町村、郷土芸能団体、アジアの芸能団体などが集い、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さらに 2020 年以降を見据えて、三陸とアジアの未来について意見交換。

- 主催:文化庁、国際交流基金アジアセンター、企業メセナ協議会、
  一般社団法人三陸国際交流協会、NPO 法人 JCDN
- 実施日:2016 年 9 月 9 日(金)13:30～17:00
- 会場:大船渡プラザホテル
- 出演者:
  宮田亮平(文化庁長官)
  櫻井友行(国際交流基金理事)
  吉本光宏(ニッセイ基礎研究所研究理事)
  稲田奈緒美(舞踊研究・批評)　ほか
- 参加者:約 70 名

クリエイティブ・ダイバーシティの実現に向けて―障がい者のアートプロジェクトの現場から

2020 年に向け、ダイバーシティやソーシャルインクルージョンへの取組みに注目が集まる中、フランス・ナント市のアートセンター「リュ・ユニック」で、アール・ブリュットの展覧会を催してきたパトリック・ギゲール氏と、「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2014」の総合ディレクターを務めた栗栖良依氏を迎えて開催。「アール・ブリュット」に対する考え方の違いを確認しながら、多様な価値観を認め合い、人々が共生する社会の実現に向け、今後必要な施策は何か、企業メセナの関わりも含めたディスカッションとなった。

- 日時:2016 年 12 月 5 日(月) 16:00～18:00
- 会場:パソナグループ本部 ソシエテサロン
- 出演者:
  パトリック・ギゲール(リュ・ユニック　ディレクター)、
  栗栖良依(スローレーベル　ディレクター)、
  モデレーター:太下義之(三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング)
- 参加者:41 名

【ミニ・メセナフォーラム】

“Successful Gift Strategies in the Arts” ファンドレイジングのノウ・ハウ

- 日時:2016 年 2 月 29 日(月)14:00～15:00
- プレゼンター:ローナ・ソマーズ(マックマスター大学財団　副理事長)
- 参加者:12 名(会員 4 名、一般 8 名)

2015 年度メセナ・アソシエイト 事例研究報告会

- 日時:2016 年 6 月 30 日(木) 17:00～19:00
- 出演者: 澤谷夏樹(音楽評論家)、鈴木紗綾子(書籍編集者)、
  高島知佐子(静岡文化芸術大学准教授)
- 参加者:13 名

【フィールド視察】

三陸国際芸術祭 2016

2014 年より、三陸沿岸の風土と歴史から生まれた郷土芸能の魅力を内外に紹介し、芸能を通して被災地間そしてアジアとのネットワークを培ってきた「三陸国際芸術祭」。2016 年は「東北三陸で、アジア芸能の未来と出会う」をテーマに、7 月 23 日からの 3 ヶ月、気仙沼、八戸、大船渡と展開してきた。
今回はフォーラムの開催にあわせ、大船渡でのメインプログラムを視察。

- 日時:2016 年 9 月 10 日(土)～11 日(日)
  視察先:メインプログラム in 大船渡(盛町)、大船渡復興北東北三大まつり(盛町商店街)、
  リアス・ウェーブ・フェスティバル 2016(大船渡市民文化会館)
- 参加者:12 名(会員 6 名、一般 2 名、事務局 4 名)

瀬戸内アートクルーズ～呉から瀬戸内の島々を巡り、竹原、尾道へ～

瀬戸内海の島々の魅力と歴史を知り、アート資産をめぐる一泊 2 日のフィールド視察。海軍工廠のまちとして栄えた呉に始まり、朝鮮通信使を迎えた下蒲刈島や、江戸期の街並みを残す大崎下島・御手洗、竹原などを巡り、大三島では神話時代創建の大山祇神社に詣で、伊東豊雄建築ミュージアムなどを訪れた。尾道では、空き家の創造的活用を実践するプロジェクトの数々を視察した。
※コーディネート事業として、せとうち観光推進機構と連携

- 日時:2016 年 10 月 17 日(月)～18 日(火)
- 行程:10 月 17 日＝呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)～下蒲刈島・松濤園、番所、本陣、蘭島閣美術館～大崎下島・御手洗町並み保存地区、劇場「乙女座」、御茶屋「若胡子屋」
  10 月 18 日＝竹原市重要伝統的建造物群保存地区、大三島・大山祇神社、今治市伊東豊雄建築ミュージアム、尾道空き家再生プロジェクト
- 参加者:延べ 47 名

瀬戸内国際芸術祭 2016＆岡山芸術交流 Okayama Art Summit2016

第 3 回となる「瀬戸内国際芸術祭 2016」は、今回「海の復権」をテーマに掲げ、個性的な瀬戸内の島々を舞台に、春・夏・秋と会期を重ねるごとに内容が充実。島の歴史や伝統、産業、集落の人たちを作品に取り入れながら、瀬戸内の美しい自然の中でしか出会えない作品の数々を展開。会期終盤につき、多くの来島者が訪れていた。

- 実施日：2016 年 10 月 31 日（月）～11 月 1 日（火）
- 視察先：豊島、女木島、高見島、本島
- 参加者：7 名

「岡山芸術交流 Okayama Art Summit2016」は「開発 Development」をテーマに、世界 16 か国から 31 組のアーティストたちが集結。岡山市内各所の風景の中に、大型のインスタレーションや映像作品を点在させた。岡山に本社を置くストライプインターナショナルの石川康晴社長（石川文化振興財団理事長）を総合プロデューサーに、岡山市、商工会議所等が連携して開催。

- 実施日：2016 年 11 月 2 日（水）
- 視察先：旧後楽館天神校舎跡地、岡山県天神山文化プラザ、福岡醤油建物、岡山城天守、林原美術館、岡山県庁前広場
- 参加者：7 名

2） 国際交流

■ASEAN ネットワークを形成する国際会議を継続

- 協議会設立 25 周年を記念して開催した国際会議（2014. 10.23.＠東京／2015.3.7-8.＠大阪）を機に、日本の企業メセナの発信と東南アジア諸国との相互交流に寄与すべく、インドネシアの都市研究ルジャックセンター、マレーシアのマイ・パフォーミングアーツ・エージェンシーとの協働による継続的な会議および視察を企画・実施した。
- 2016 年 3 月 8 日、インドネシアの都市研究ルジャックセンターをパートナーに、テーマを「芸術文化振興と社会創造における企業の役割 ～ASEAN ネットワークの構築に向けて」とし、ジャカルタでの会議を開催。インドネシア政府、現地企業、現地日本企業、文化関係者など約 60 名の参加を得た。
- 会議翌日には、ジャカルタ中心部にある文化施設等を視察し（サリハラ・アートセンター、カルチャーセンター）、ジャカルタ・アーツカウンシルや、アーティスト・イニシアティブで運営される組織の代表者へのヒアリング、および意見交換を行った。
- 文化の領域では「国際競争」よりも「協働」が生まれやすい。ASEAN が経済のつながりにとどまるだけでなく、文化交流の促進が今後さらに望まれるとの意見があり、各国の課題解決のため、先進事例を共有することの意義が強調された。

- なお本会議については、国際交流基金アジアセンター「アジア・文化創造協働助成」事業として、3ヵ年にわたり採択されるとともに、以下の会員企業からの支援を得ている。

［助成］国際交流基金アジアセンター「アジア・文化創造協働助成」
［寄付・協賛］アサヒグループホールディングス、花王、資生堂、損害保険ジャパン日本興亜、大日本印刷、トヨタ自動車、日本電気、ベネッセホールディングス
［協力］サントリーホールディングス

【ジャカルタ会議および現地視察】

テーマ：「芸術文化振興と社会創造における企業の役割 ～ASEAN ネットワークの構築に向けて」
日　時：2016 年 3 月 8 日（火） 13:00～18:00
会　場：フェアモント・ジャカルタ

インドネシアでは、ジョグジャカルタを中心とした文化による観光振興の成功があるものの、持続的な文化芸術振興のための基盤ができていない。政府はクリエイティブ産業に注目し、教育文化庁、創造経済庁それぞれ施策に取り組んでいるが、具体的な取り組みは十分ではなく、今後、官民相互に協力していくうえで、芸術文化との橋渡しとなるような存在への期待があった。
日本側からは、資生堂より、文化資本を活かした経営の理念と歴史について、また協議会より、日本各地の企業が文化を牽引してきたことを、事例を交えてプレゼンテーション。日本企業の経営理念の根幹にある「三方よし」の哲学や、文化による地域活性化、創造拠点形成、次世代育成の事例など、現地の人々の高い関心を集めた。

◎ウェルカムスピーチ　マルコ・クスマウィヤジャ（都市研究ルジャックセンター　ディレクター）
◎来賓挨拶　リッキー・ペシク（インドネシア創造経済庁副議長）
◎オープニングスピーチ　尾﨑元規（公益社団法人企業メセナ協議会　理事長）
◎基調講演　加藤種男（公益社団法人企業メセナ協議会　専務理事）
◎プレゼンテーション①　イザン・サトリナ・モハメド・サレフディン
（マイ・パフォーミング・アーツ・エージェンシー:MyPPA　ディレクター、マレーシア）
プレゼンテーション②　斉藤幸博（株式会社資生堂　企業文化部長）
◎ディスカッション
- 出演者：
イザン・サトリナ・モハメド・サレフディン、加藤種男、斉藤幸博
ハリョ・スプロボ（ファースト・ステート・インベストメント取締役社長）
ヒルマー・ファリッド（インドネシア教育文化庁長官）
ワイ・ダブリュー・ジュナリー
（インドネシア・フィランソロピー・アソシエーションメンバー、ラジャワリ・コーポレーション代表理事）
モデレーター：マルコ・クスマウィヤジャ（都市研究ルジャックセンター　ディレクター）

- 5 月 27 日、「芸術文化振興と社会創造における企業の役割 ～ASEAN ネットワークの構築に向けて～東京会議」を開催。タイ、オーストラリア、マレーシア、シンガポールから、さまざまな立場で芸術・文化振興にかかわるゲストを迎え、日本からはメセナに取り組む企業トップ、担当者が登壇してのプレゼンテーションを行い、企業メセナの意義と成果、多方向の文化交流の重要性について議論が交わされた。企業メセナの担当者をはじめ、文化関係者等 114 名が参加した。

- 会議の最後には、協議会と MyPAA の間で、マレーシアにおける企業メセナの推進に向けた協働を約する MOU（了解覚書）を、マレーシア大使ダト・アハマッド・イズラン・イドゥリス氏臨席のもとで交わした。次回のマレーシア会議を通して企業メセナの重要性を周知し、ASEAN 各国政府や企業も巻き込んだ文化振興プラットフォームの構築に努めるという内容である。
- 東京会議の前日（5/26）には、3331Arts Chiyoda、セルリアンタワー能楽堂、資生堂を視察。日本企業が固有のフィロソフィーに基づくメセナを行っていることがわかり、それを ASEAN 諸国に伝えてもらいたいとの意見が会議でも発せられた。

【東京会議および視察】

テーマ：「芸術文化振興と社会創造における企業の役割 ～ASEAN ネットワークの構築に向けて」
日 時：2016 年 5 月 27 日（金） 15:00～19:00
会 場：ベルサール東京日本橋

出演者それぞれから活動をプレゼンテーションした後、首題のテーマに沿って意見交換。芸術・文化の必要性について、「文化は自国・地域アイデンティティ」「芸術・文化のクリエイティビティ、イノベーションはビジネスにつながる」などの指摘があり、それをいかにステークホルダーや関心のない人々に伝えるかについては、「ステークホルダー自ら関わってもらうことが重要」との提案があった。
ASEAN ではメセナという概念への理解や、企業の活動は十分でなく、このような会議を重ね、ネットワークを広げていきながら、それぞれの取り組みを共有していきたいとの声があった。

◎プレゼンテーション／ディスカッション
- 出演者：
  渡辺 健（株式会社ベネッセホールディングス 直島事業室 室長）
  クリッティヤー・カーウィーウォン
  （ジム・トンプソン財団、ジム・トンプソン・アートセンター芸術監督、タイ）
  ヤテラ・ザニアル・アビディン（サイム・ダービー財団 取締役、マレーシア）
  中村俊郎(中村ブレイス株式会社 代表取締役)
  スアン・フゥイー・オング
  （ナショナル・アーツカウンシル・シンガポール 芸術文化発展次長、シンガポール）
  カリロ・ガントナー（シドニー・メイヤー財団会長、ハーグクラブ相談役、
  プレイボックス劇場前芸術監督、俳優、オーストラリア）
  舟橋香樹（大日本印刷株式会社 ICC 本部長/公益社団法人企業メセナ協議会 理事）
  モデレーター：吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事）

◎MOU 取り交わし

- 8 月 24 日はクアラルンプールで、「創造経済の実現に向けて：文化資本による経営と、社会資本としての文化の振興」をテーマとした会議を開催。マレーシアの政府関係者、文化関係者など約 160 名が参加した。
- 2020 年には先進国になるとの目標を掲げるマレーシアでは、政府が主導して、クリエイティブ産業への投資、観光の観点からの文化振興に注力しているが、多民族国家として、いかにそれぞれの文化の違いを受け入れ、理解していくかが常に重要なテーマである。2014 年には政府機関が中心となり東南アジア・クリエイティブ・ネットワークを設立、ASEAN との協定を進め、協働でフォーラムや文化事業にも取り組み始めた。
- 会議翌日（8/25）には、サイム・ダービー財団が支援するクアラルンプール・パフォーミングアーツ・センター：KLPAC、ペトロナス社が運営するペトロナス・ハーモニック・ホール、プライベートのアーティスト・イン・レジデンス「リンブン・ダハン」を視察。KLPAC の多民族文化の担い手育成、オーケストラを有する音楽ホール運営は、ソフトを育む企業メセナとして注目に値した。

- さらに 8 月 26-27 日にはペナン島で、2008 年に世界遺産となったジョージタウンを訪れ、シンクシティとのミーティングを行うほか、現地で開催中の「ジョージタウン・フェスティバル」、MyPPA が例年主催する会議「Borak Arts Series」に参加した。

【マレーシア会議および現地視察】

テーマ：「芸術文化振興と社会創造における企業の役割 ～ASEAN ネットワークの構築に向けて」
日　時：2016 年 8 月 24 日（水） 13:00～18:00
会　場：ル・メリディアンホテル

基調講演は、瀬戸内海の島々でアートプロジェクトを展開するベネッセアートサイト直島の実践。「あるものを活かし、ないものを創る」との考えは、ペナン島・ジョージタウンで、古い建物やまちの歴史を活かしながら都市を再生していくシンクシティの取り組みに共通しており、興味深い内容だった。

10:30～11:30 【クローズド・ミーティング】
マレーシア政府関係者（内閣府・文化省）、シンガポール・アーツカウンシル、
フィリピン大使館、マイ・パフォーミングアーツ・エージェンシー、企業メセナ協議会　他

13:00～18:00 【マレーシア会議】
◎オープニング・パフォーマンス　佃康史（尺八）、佃美代子（津軽三味線）
◎ウェルカムスピーチ　イザン・サトリナ・モハメド・サレフディン
（マイ・パフォーミング・アーツ・エージェンシーディレクター）
◎オープニングスピーチ　尾﨑元規（公益社団法人企業メセナ協議会理事長、花王株式会社顧問）
◎来賓挨拶　トゥン・ムサ・ヒタム （マレーシア前副首相）
◎来賓挨拶　児玉良則 （在マレーシア日本大使館公使）
◎基調講演「アート・建築・自然・地域再生 ―ベネッセアートサイト直島の実践―」
三木あき子(ベネッセアートサイト直島　インターナショナル・アーティスティック・ディレクター)
◎プレゼンテーション 「経営における芸術・文化活動について」
斉藤幸博（株式会社資生堂 企業文化部長）
◎プレゼンテーション 「ASEAN 諸国での芸術におけるマレーシアの役割」
マジェート・ハムダン （シンクシティ専務理事）
◎イントロダクション「日本文化発信」
能登剛史（アート・ミックス・ジャパン 総合プロデューサー）
◎ディスカッション「文化資本による経営・社会資本としての文化振興」
- 出演者：
三木あき子、斉藤幸博、マジェート・ハムダン
モデレーター：アンピカイパカン・ウマパガン
（プロデューサー・プレゼンター、ビジネス・ラジオ・ステーション）

◎ティーラウンドテーブル・ディスカッション　　＊来場者が関心あるテーマを選んで参加
① 多様性に基づく芸術・文化による協働
② それぞれの文化政策
③ 企業の芸術活動から企業と社会の協働による芸術活動へ

■海外のメセナ機関、文化関係者との交流に努める

- 英語によるメール配信などをきっかけとして、IFACCA（International Federation of Arts Council and Culture Agencies）エグゼクティブディレクター、サラ・ガードナー氏より、6 月の来日時に面談の申し入れがあり、加藤専務理事が対応した。各国のアーツカウンシルや国際的な文化機関が集う会議にて、日本の企業メセナを紹介したい旨、提案があった。
- 7 月 19-20 日、マレーシアより視察団 8 名を受け入れ。クアラルンプール郊外で倉庫群を有する民間企業が、文化の創造拠点としての再開発を検討しており、東京、大阪、北京での事例視察とヒアリングの依頼がありコーディネート。東京では寺田倉庫、TechShop Tokyo、3331Arts Chiyoda、代官山 T-site、大阪では千島土地の北加賀屋クリエイティブ・ビレッジを案内した。
- フランス外務省からの依頼により、ジャーナリストで社会学者のフレデリック・マルテル氏からのヒアリング申し入れがあり、11 月 22 日に加藤専務理事が対応。企業メセナの現況や現代日本の文化の概況、特に世界を席巻した日本のアニメなどサブカルチャーの今後について意見交換を行った。マルテル氏は 11 月 24 日開催の「メセナアワード 2016」贈呈式にも出席した。

3） メセナネットワーキング

■会員相互の交流と、メセナの輪を広げる機会を設ける

- 会員ネットワーキンググループ幹事の企画で、「新入会員ファーストミーティング」を行い（7/6）、4 社 4 名の新会員が参加した。各社のメセナ活動についてプレゼンテーションを行う他、協議会の事業概要等を案内し、懇親会にて会員ネットワーキンググループのメンバーおよび事務局スタッフも含め、相互に交流を深めた。
- 会員ネットワーキンググループ有志により企画運営している「メセナ美術部」に続き、「メセナ音楽部」が発足。音楽ホールなど施設運営や音楽事業の企画等を担う担当者が集い、ネットワーク形成や情報交換を目指すべく、第 1 回音楽部を 3 月 18 日、開館 20 周年を迎えた紀尾井ホールにて公演鑑賞と意見交換会を実施した。特に、公演鑑賞後に行った町田龍一氏（新日鉄住金文化財団常務理事）によるレクチャーは、邦楽ホールを有する紀尾井ホールのミッションに基づく、邦楽の普及と独自の企画制作の意義を伺え、貴重な機会となった。
- トヨタ自動車のメセナ担当者より、音楽部を中心として「音楽メセナ企業の意見交換会」を実施したいとの依頼があり、実現。会員交流ネットワークのメンバーほか会員企業・財団 7 社・9 名が集い、①音楽メセナにおける重視点、②社内外への活動認知に向けた取り組み、③CSV との関連における音楽メセナの現況等について、意見交換がなされた。
- 第 7 回となる「メセナ美術部」は、東京国立近代美術館にて開催中の「トーマス・ルフ展」にて実施。現代写真界を牽引してきたアーティストの初期作品から最新作までが一望できる日本初の大規模な回顧展で、企画者の増田玲氏（東京国立近代美術館主任研究員）に解説いただきながら鑑賞した。閉館後の美術館をメセナ美術部のために開放いただき、さまざまなエピソードを交えながらのギャラリーツアーは特別感があり、参加者の満足度も高かった。
- 「美術部」「音楽部」ともに、会員のみならず、文化施設運営や事業企画に従事する企業の担当者や文化関係者が集っており、幅広いネットワークを形成するとともに、会員以外の企業に協議会を周知する機会となっている。
- 第 4 回を数える「会員ネットワーク勉強会」では、寺田倉庫を視察。若手アーティストを対象とする「TERRADA ART AWARD」や、収蔵庫を展示スペースとして鑑賞できる「建築倉庫ミュージア

ム」のオープンで話題を集める同社。倉庫を改修したアトリエや音楽スタジオが併設した楽器倉庫、希少な画材を専門に扱う店舗 PIGMENT など、天王洲エリアをアートコンプレックスとして展開する趣旨や理念を伺い、創意工夫に満ちた取り組みの現場を巡った。

【新入会員ファーストミーティング】

7 月 6 日(水) 16:00～17:30 協議会事務所	• 参加会員 12 名、うち新入会員以下 4 名: 勝山里美(大林組)、佐藤忠輝(しずおか信用金庫)、 繁田一伸(テルモ)、砂屋敷真衣(富士フイルム)

【メセナ音楽部】

3 月 18 日(金) 14:00～17:30 紀尾井ホール	**第 1 回メセナ音楽部** • 公演鑑賞:泉鏡花「歌行燈」 • 邦楽レクチャー:町田龍一氏(新日鉄住金文化財団常務理事) • 参加者:11 名(会員 7 名、一般 2 名、事務局 2 名)
6 月 21 日(火) 15:30～18:00 協議会事務所	**音楽部スピンオフ企画** • 音楽メセナにかかわる企業の意見交換 • 参加会員:9 名(7 社)

【メセナ美術部】

10 月 25 日(火) 17:00～18:30 東京国立近代美術館	**第 7 回メセナ美術部「トーマス・ルフ」展** • ミュージアムショップ見学(自由参加 16:30～17:00) • ギャラリーツアー:増田玲氏(東京国立近代美術館主任研究員) • 参加者:29 名(会員 12 名、一般 14 名、事務局 3 名)

【会員勉強会】

8 月 3 日(水) 15:00～17:00 寺田倉庫	**第 4 回会員ネットワーク勉強会＠寺田倉庫・天王洲エリア視察** • ご案内:藤原小百合(アート事業企画プロジェクト アートディレクター)、 脇山亜希子(社長室広報チームリーダー) • 参加者:30 名(会員 23 名、メセナライター2 名、事務局 5 名)

4) 地域メセナ交流・推進

■「Creative Archipelago(創造列島)」を推進すべく、各地域の文化振興に寄与

- 2020 年を機として、文化振興による全国各地の活性化を謳う「Creative Archipelago(創造列島)」を推進すべく、コーディネート事業を中心として、具体的な相談に応じ提案等を行った。本年 4 月に発足した「せとうち観光推進機構」とは調査受託等を通じた提案、損害保険ジャパン日本興亜が設立した「SOMPOアート・ファンド」では、全国各地のアートフェスティバルやアートプロジェクトに対する助成、アサヒビールの「すみだ川アートプロジェクト」を継承する墨田区の「隅田川森羅万象　墨に夢」のプロジェクト運営ほか、企業と自治体、アート NPO や市民をつなぐプラットフォームとしての機能を充実させた。

- 協議会の関西拠点である関西・大阪 21 世紀協会等で、メセナ関連の相談を受ける「メセナよろず相談日」を実施（2/29、7/16-18、11/4）。大阪、京都、香川でメセナ活動を実施する企業および文化団体等からの相談を受けるほか、活動の現場を視察した。
- 「SOMPOアート・ファンド」の助成先決定や「メセナアワード」受賞活動、「GBFund」検証報告会のプレスリリース等の発行に際し、該当する地域のメディアに働きかけた。また「メセナライター」制度でも、福岡、名古屋、新潟、神戸在住の方々にライターを委嘱し、各地の企業メセナ活動についてのレポートをしてもらうなど、積極的に情報発信を行った。

1-6. コーディネート、協力

■芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協議会に蓄積された情報や知見を活かし、芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担っている。
- なかでも「2021Arts Fund」の仕組みを活用し、損害保険ジャパン日本興亜が新たなメセナプログラムとして設立した「SOMPOアート・ファンド」では、被災地を含む全国各地域の文化振興をめざして、公募・選考により 18 件のアートフェスティバルおよびアートプロジェクトに対する助成を実現。助成対象候補のリサーチや活動募集と応募活動に対するヒアリング、同ファンド独自の選考委員会の運営と現地視察、広報協力など、協議会事務局の専門性とネットワークを活かし、損害保険ジャパン日本興亜と連携しながらファンド運営を行うことができた。
- 他にも「2021 Arts Fund」を活用した新たなメセナプログラムを会員企業に提案し、実現に向けた検討が進んでいる。また、協議会の助成制度を長年活用してきた団体から、公益財団設立に向けたコンサルティングの打診があるなど、多様な文化事業の担い手からの相談に応じている。
- 2009 年より継続実施し、コーディネート事業として受託しきてきた「すみだ川アートプロジェクト」（主催：アサヒグループ芸術文化財団、特別協賛：アサヒビール株式会社）が 2015 年度で終了することとなったが、当プロジェクトに共催し、高く評価・共感してきた墨田区がこの理念を継承するプロジェクトを展開したいとの相談があり、新たな企画を提案。すみだ北斎美術館の 11 月 22 日開館に向けて、市民が主体的に参加するアートプロジェクト「隅田川　森羅万象　墨に夢」をスタートさせることとなり、同実行委員会の事務局を受託した。なお本プロジェクトに対して、アサヒビールより特別協賛を得るという、継続した展開が見られた。
- トヨタ自動車が運営するアートマネジメントに関する総合サイト「ネット TAM」については、本年度も継続して事務局を担い、毎月の定例会議を行いながら内容の充実に努めた。特に、芸術文化分野の求人情報を掲載する「キャリアバンク」は、アートの現場で働きたい方々には必見のページとなっており、全国の文化施設はじめ、幅広い活動の場とつなぐ役割を担っている。また、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けては、新たなコンテンツ「オリンピアード文化通信」を開設。2020 年以降を見据え、良質なアーカイブを目指している。
- 東京都が 2020 年に向けて都民のボランティア参加を促すべく、「東京都ボランティア活動推進協議会気運醸成分科会」を設置。この構成機関として依頼があり、経団連 1%クラブや経済同友会、東京商工会議所ほか、教育機関や中間支援組織等とともに会議に参加している。東京都の主催により「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」が設けられ、企業メセナでボラ

ンティア活用に取り組む案件を複数推薦し、その中から第一生命ホールを運営するトリトン・アーツ・ネットワークが「特別賞」を受賞することとなった。

- 調査を中心としたコーディネート事業では、前年度に受託した「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」（広島県）を取りまとめて報告する他、会員企業からも、新たなメセナプログラムの策定に向けた調査依頼があった。

【主なコーディネート事業】

損害保険ジャパン日本興亜	「SOMPOアート・ファンド」の運営

2016 年 6 月、協議会「2021ArtsFund」内に「SOMPOアート・ファンド」を設立。2020 年に向けて、芸術・文化を通じた豊かな社会を実現するため、全国各地で実施される個性豊かなアートプロジェクトや国際的なアートフェスティバル等に対する助成を行う。

- 支援対象：①未来の文化創造に貢献し、人々のクリエイティビティを高めていくような芸術・文化活動、②地域の魅力を顕在化させ、その独自性を発揮していくような芸術・文化活動、③文化による国際交流、および多方向性ある文化交流を促すような芸術・文化活動　等
- 対象期間：2016 年 8 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日まで
- 採択件数：18 件（4 名の委員による選考会を 7/22 に実施）
- 広報活動：8 月 22 日プレスリリース発行。採択活動の 1 つである「三陸国際芸術祭」の開催にあわせて、共同通信と河北新報にアプローチし、記事化。
- 報告会：2017 年 3 月 22 日の実施を予定

トヨタ自動車	「トヨタ・アートマネジメント」プログラムの運営

アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」（www.nettam.jp）の企画・運営、月例更新（コンテンツ製作）、SNS による広報。

- オリンピック文化プログラムに特化したテーマの新コンテンツ「オリンピアード文化通信」を開設。
- 更新内容：メルマガ配信（毎月 1 日・15 日）、リレーコラム（毎月 1 日公開）、取材、新コンテンツ立ち上げ
- 訪問数：1,611,420（年間）
- ユニークユーザー数：724,035（年間）
- ページビュー：5,012,949（年間）

墨田区	「隅田川　森羅万象　墨に夢」の運営

すみだ北斎美術館の開館にあわせ、約 2 ヶ月にわたり実施したアートプロジェクト。「北斎」「隅田川」にちなむ企画を公募し、93 件の応募の中から採択した 38 件の企画が墨田区を中心にさまざまな拠点やまちなかで展開された。
協議会は当実行委員会の事務局として、企画公募から選考会の実施、WEB やチラシ等による広報活動、墨田区および参加団体との連絡調整、月一回の寄合（連絡会）の実施などの業務を担っている。

- 会期：2016 年 9 月 23 日（金）～11 月 22 日（火）
- 主催：「隅田川　森羅万象　墨に夢」実行委員会、墨田区
- 特別協賛：　アサヒビール株式会社
- 協力：公益財団法人墨田区文化振興財団、
  公益社団法人企業メセナ協議会　他
- メイン期間の参加者数：延べ 28,436 名

広島県／一般社団法人せとうち観光推進機構

「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」／「瀬戸内アートツーリズム資産整理・評価業務」

2015 年度に広島県より受託した「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」の成果をまとめて報告。瀬戸内 7 県（兵庫、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛）のアート資産（施設、文化財、街並み、産業遺産、企業・財団、景観等）の一覧化と、観光面の資産評価を行った。

① 「瀬戸内アート資産等調査・整理事業」（受託期間：2015 年 4～2016 年 3 月）
② 「瀬戸内アートツーリズム資産整理・評価業務」（受託期間：2016 年 1～3 月）

◎調査データの提出

調査報告書付録データ（※2016 年 9 月最終版提出）

① 「1.5／資産評価データ」：文化資産リスト 4,781 件（評価 2,944 件）
② 「第二次データ」：重要資産概要リスト 425 件

◎調査報告会の実施

- 実施日：2016 年 5 月 10 日（火）
- 会場：せとうち観光推進機構（広島市）
- 参加者数：約 40 名
- 報告者：
  金代健次郎（公益財団法人福武財団 事務局長）
  田野智子 （NPO 法人ハートアートリンク 代表理事）
  徳永高志 （NPO 法人クオリティ アンド コミュニケーション オブ アーツ 代表）
  荻原康子（企業メセナ協議会事務局長）、末澤汐音（企業メセナ協議会プログラム・オフィサー）

◎アートクルーズの実施および第 1 回アート部会開催

上記の調査に基づき、文化資産をコンテンツとする具体的なクルーズ企画のリサーチに資すべく、昨年に引き続き「瀬戸内アートクルーズ」の企画・運営を受託。あわせて、地元企業を中心とする「せとうち DMO 第 1 回アート部会」が開催され、今後、民間企業等と連携した文化資源による観光誘客、メセナ活動の振興について意見が交わされた。

- 実施日：2016 年 10 月 17 日（月）-18 日（火）
- 視察先：p19 参照

【その他、会員等からの協力依頼対応】

依 頼 元	内 容
アサヒビール株式会社	アートフェスティバルおよびアートプロジェクトに関する調査・分析 ※全国で行われる活動 50 件超へのアンケート調査を含む
大日本印刷株式会社	フィンランド国立アテネウム美術館×DNP ミュージアムラボ シンポジウム 「ミュージアムの幸せ効果―美術鑑賞の可能性から考える―」報告書作成
株式会社リクルートホールディングス	ガーディアン・ガーデンの公募展「1_WALL」に対する外部評価 ※3 つの展覧会を観覧しての意見レポート
横浜市広報企画審議会	平成 28 年度横浜市広報企画審議会委員
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	トリトン・アーツ・ネットワーク第 5 期評価委員会委員 （2014 年 4 月～2016 年 3 月）

公 2:芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

2-1.「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」(2021 Arts Fund)

■未来への文化投資を促す目的ファンドとして本格運用

- 文化による社会創造を、寄付と助成制度の面からいっそう促進すべく、「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」(通称:2021 Arts Fund)の周知および活用に注力、前年度に引き続き、大きな実績を上げ、多様なファンド運営の可能性を拡げた。
- 当ファンドの重点対象は①地域文化振興および芸術・文化による地域創造、②芸術・文化を通じた国際交流および日本文化の国際発信、③芸術・文化およびこれを通じた社会創造を担う人材育成、④その他、芸術・文化振興に資する活動としており、文化事業等の主催者のみならず、目的を特化した寄付を行う企業・個人からの要望に応じる多様なファンド形成を目指している。
- 2016 年度は、損害保険ジャパン日本興亜による「SOMPOアート・ファンド」の他、森ビルによる英国テートモダンへの寄付型ファンド、数年にわたり実施される「21 世紀鷹峯フォーラム」の活動を複数社の寄付で支える活動型ファンドの設置など、それぞれに独自の要望に応じたコーディネートが実現できた。
- 当ファンドの運営に際しては、寄付金の 10%を上限とする事務局経費を申し受けており、本制度の公益性を保障する活動に役立てている。

芸術・文化による社会創造ファンド
企業メセナ協議会

【採択件数と寄付状況等】

年　度	採択件数	寄付件数	寄付総額	助成総額
2016 年度	17 件	503 件	3 億 7,787 万 6,359 円	3 億 1,213 万 1,769 円
2015 年度	28 件	578 件	3 億 2,591 万 6,932 円	3 億 1,193 万 7,917 円

■寄付専用サイト「かるふぁん！」の開設

- 2015 年 4 月に開設した、芸術・文化の寄付に関するポータルサイト「かるふぁん！」は、利便性を高めるべく利用者の声を反映させながらリニューアルを進めた。オンラインでの申請・寄付システムと連動させ、2021Arts Fund ではカード決済や、活動広報にも活用できるなど、より利用者にわかりやすいかたちを心掛け、着実に効果が現れている。

2-2. 震災復興支援事業「東日本大震災　芸術文化による復興支援ファンド」(GBFund)

■「GBFund」の 5 年間にわたる活動の意義と成果を検証

- GBFund は 2011 年の設立から 2016 年 12 月までを第一期としたことから、当ファンドが震災復興に果たした役割や成果を検証し、今後の事業の方向性を検討すべく、2015 年 7 月に外部メンバーからなる検証チームを発足。助成先からの活動報告書の読み込みやアンケートの実施、現地でのヒアリング等を通じて検証作業を行ってきた。
- アンケートやヒアリングからは、東日本大震災の発災後約 2 週間でファンドを設立し、活動支援金を助成したスピード感や事務局対応の丁寧さへの感謝の声が寄せられ、「GBFund があったからこそ活動が実施できた」など、当ファンドの有効性を示す意見が多くあった。それとともに、コミュニティの分断や後継者不足により、今後の活動継続を危ぶむ団体も少なくなく、引き続き、支援の必要性が訴えられた。
- 本検証作業の報告会を、7 月 14 日に開催。活動報告書やアンケート、ヒアリングの内容を分析するとともに、5 年間の現地でのニーズの変化や助成活動の実態の変遷、寄付の状況について報告した。あわせて、これらの検証作業の内容をまとめた冊子『GBFund2011-2015』を発行し、寄付者および助成先ほか関係者へ配布した。

【GBFund 検証チーム】

リーダー　大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所 社会研究部芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)
メンバー　小岩秀太郎(全日本郷土芸能協会　事務局次長)、
佐藤友美(トヨタ自動車 総合企画部)、白木里恵子(早稲田大学大学院研究員)、
野崎美樹(岡本太郎美術館 教育普及担当)

【GBFund 報告会】

日　時: 2016 年 7 月 14 日(木)　16:00～19:00
会　場: 電通ホール

東日本大震災を機に立ち上げた「芸術・文化による復興支援ファンド(通称:GBFund)」の設立から 5 年の節目を捉え、その取り組みと成果について検証した内容を報告。さらに助成活動の現状紹介や、検証により見えてきた芸術・文化による復興支援のあり方について意見を交わした。

◎GBFund 検証結果
検証チームより、リーダーと協議会スタッフが報告

◎助成活動プレゼンテーション
① 山形国際ドキュメンタリー映画祭
② 三陸国際芸術祭～ヒューマン・セレブレーション～

◎パネルディスカッション
「東日本大震災から次なる災害に備えて
－芸術・文化による災害復興支援の可能性について考える－」
- 出演者:
佐東範一(NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)
畑あゆみ(認定 NPO 法人山形国際ドキュメンタリー映画祭)
山内宏泰(リアス・アーク美術館)
小岩秀太郎(公益社団法人全日本郷土芸能協会 事務次長)
片山正夫(公益財団法人セゾン文化財団 常務理事)
モデレーター:大澤寅雄(株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

◎交流タイム

■「GBFund 熊本・大分」の設立と、GBFund の継続

- 2016 年 4 月に発災した熊本地震を受け、熊本・大分を対象に行われる芸術・文化活動を支援すべく「GBFund 熊本・大分」を設立。4 月 21 日から寄付を募り、現地の文化関係者やアート NPO 等より申請を受け付けて、3 件の助成活動を採択した。
- 2016 年度は、東日本、熊本・大分を対象として、GBFund の選考会を 6 月 13 日に行い、以下のような実績となった。

【2016 年度の助成件数と助成金額】

GBFund 選考会(2016/6/13)	申請数	採択(助成)数	助成総額
第 14 回 GBFund 選考会(東日本大震災)	50 件	10 件	300 万円
第 1 回 GBFund 熊本・大分	10 件	3 件	60 万円
合計	60 件	13 件	360 万円

※ 2015 年度(第 12 回・第 13 回):申請数 92 件、採択数 26 件、助成総額 845 万円
※ 2014 年度(第 10 回・第 11 回):申請数 123 件、採択数 28 件、助成総額 964 万円

【GBFund 選考委員】

片山正夫　(セゾン文化財団常務理事)
加藤種男　(企業メセナ協議会専務理事)
俵木 悟　(成城大学文芸学部文化史学科准教授)
船曳建夫　(文化人類学者)
吉本光宏　(ニッセイ基礎研究所研究理事)

【寄付総額・助成状況】

[ファンド目標額]　2 億円
[寄付総額]　1 億 5,316 万 7,413 円
[助成総額]　1 億 4,053 万 3,187 円 (寄付先指定寄付を含む)
[採択活動件数]　東日本:259 件、熊本・大分:3 件

- GBFund 検証作業の結果を踏まえ、かつ、熊本地震を含め、今後、国内で発災する災害に対して、芸術・文化による復興支援を継続できるよう、「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」を「芸術・文化による災害復興支援ファンド」と改称して「GBFund」と略し、助成事業を継続していくことを、第 23 回臨時理事会(9/21)にて決定。継続的に寄付を募りつつ、2017 年 1 月より新たな実施規程のもとで運用を始め、毎年 1 回の活動募集と助成を行うこととした。
- あわせて、会員企業等からは引き続き、被災地支援に関する相談があることから、個別の支援先とのコーディネートや、自ら寄付金を募ろうとする団体の活動認定などにより、柔軟に対応していくことを目指している。

2-3. 助成認定制度

■制度利用者からの問い合わせ対応、「かるふぁん！」の説明に注力

- 従来の助成認定制度利用者のうち、事業費および寄付金額の大きな団体が「2021 Arts Fund」に移行したことから、「助成認定制度」では、臨時組織で規模の小さな活動を対象として活動申請の受付と認定、寄付金授受を行うこととなった。
- 2016 年度は 4 回の審査委員会を実施。「2021 Arts Fund」の利用を推奨したこともあり、申請件数は前年度に続き、減少傾向にある。
- 協議会の助成制度の活用を検討する文化団体や寄付者に対する「助成相談窓口」を設け、東京の事務所では毎月 1 回の「助成相談日」、関西方面では、関西・大阪 21 世紀協会の事務所を借りるなどで年数回の「メセナよろず相談日」を実施している。
- 企業への支援依頼のアプローチや資金調達に関する相談のほか、申請と寄付金授受に関しては「かるふぁん！」によるオンラインシステムを用いることから、実務的な作業についての問い合わせも多い。
- オンラインを活用した助成システムによる作業の効率化をはかる一方で、利用者に対する丁寧な対応を心掛け、芸術・文化活動に対する民から民への資金の投入に資する制度運営を行っていきたい。

Mécénat
企業メセナ協議会
助成認定活動

【2016 年度の認定件数】

	実施日	認定件数	申請件数
第 1 回審査委員会	2 月 24 日	16 件	24 件
第 2 回審査委員会	6 月 22 日	32 件	37 件
第 3 回審査委員会	9 月 14 日	23 件	25 件
第 4 回審査委員会	12 月 8 日	10 件	16 件
	合　計	81 件	102 件

【寄付件数と寄付金額】

年　度	寄付件数	寄付総額	助成総額
2016 年度	337 件	6,276 万 5,639 円	6,748 万 5,639 円
2015 年度	544 件	2 億 744 万 2,804 円	2 億 791 万 2,804 円

以 上